

# 子育て家族の住まいと住環境に関する調査 報告書

2018年3月

多摩市都市計画課 住宅担当  
大妻女子大学 社会情報学部  
社会情報学科環境情報学専攻 松本研究室

1. 調査の目的および方法
  - 1-1. 調査の目的
  - 1-2. 調査の概要 調査時期、方法、回収率
  
2. 調査の結果
  - 2-1. 回答者の属性
  - 2-2. 回答者の住まい
  - 2-3. 地域の住環境
  - 2-4. 子育て期の住まいと住環境
  
3. 調査の分析および考察
  - 3-1. 子育て家族の住まいの特徴
  - 3-2. 子育て家族の住環境の特徴

おわりに

資料 調査票

## 1. 調査の目的および方法

### 1-1. はじめに

昨年10月に、大妻女子大学地域連携プロジェクトの一環として、大妻女子大学社会情報学部 松本研究室と多摩市都市計画課住宅担当が連携し、多摩市における「子育て家族の住まいと住環境に関する調査」として、住まい方・居住意向について、アンケート調査を行いました。多摩市内の認可保育園および認定子ども園全23園の保護者の方々に配布し、多くの方にご回答いただきました。また、配布・回収において、保育園・子ども園の方々にもご協力いただきました。ご協力くださった皆さまに、心より御礼申し上げます。

### 1-2. 調査の目的および調査概要

本調査は、多摩市に居住する子育て世代の住まいの現状や住替えに対する意向を把握し、若い世代・子育て世代の転入・定住促進のための基礎資料とすることを目的として実施した。調査対象は、多摩市内の保育園および子ども園（全23園、うち子ども園2園）に通う園児（定員2742名）の保護者とした。調査票は世帯単位で配布し、兄弟、姉妹などの同一世帯に園児が2名以上の場合は1票となるように配布した。

調査の概要は以下のとおりである。

調査時期：平成29年10月1日～23日

調査方法：質問紙調査

保育園・子ども園を通して、調査票の配布、回収を行った。

調査対象：多摩市内の保育園および子ども園 全23園（子ども園2園を含む）に通う園児（定員2742名）の保護者に対し、世帯単位（兄弟姉妹のいる場合1世帯とする）で配布した結果、2176世帯が対象である。

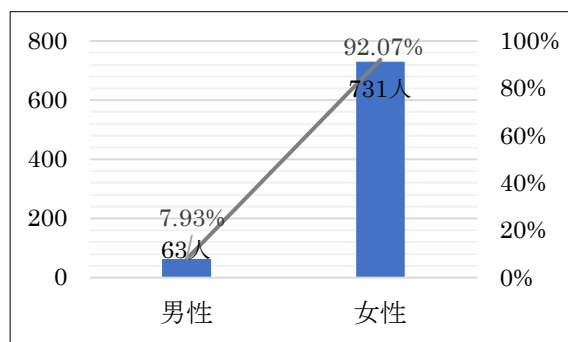
回収状況：配布数 2176票、回収数 802票（有効回収率 36.9%）

## 2. 調査の結果

### 2-1. 回答者の属性

#### 問1 性別

回答者全体の92.1%(731人)が「女性」、7.9%(63人)が「男性」でした。

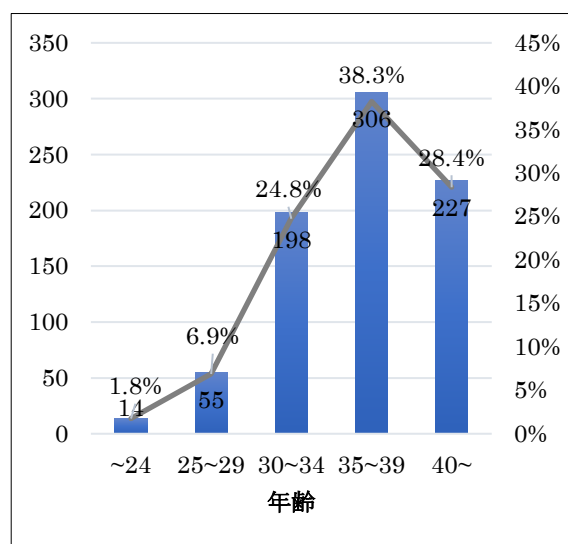


問1 性別

\*左軸、棒グラフ:人数、右軸、折れ線グラフ(以下同様)

#### 問2 年齢構成

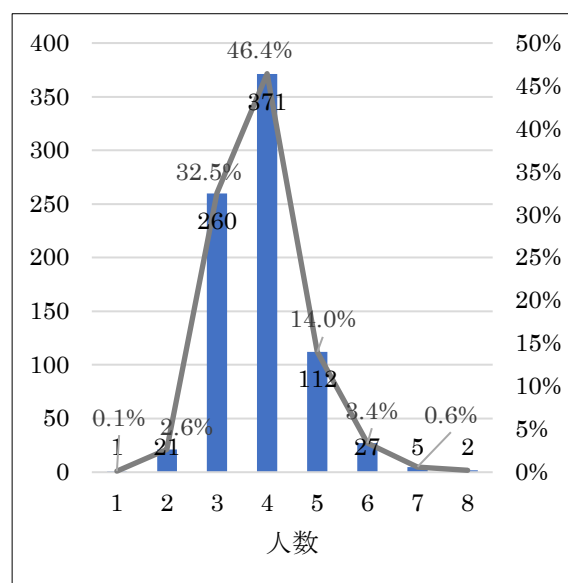
「35歳~39歳」が最も多く38.3%、次いで「40歳以上」が28.4%、3番目に多い年齢層が「30歳~34歳」で、24.8%でした。



問2 年齢構成

#### 問4 同居家族の人数

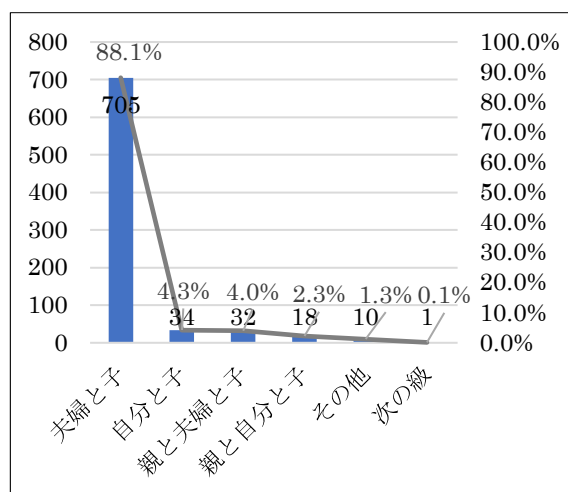
「4人」が最も多く46.4%、次いで「3人」が32.5%でした。「4人」と「3人の合計で78.9%を占めている。



問3 同居家族の人数

### 問5 家族構成

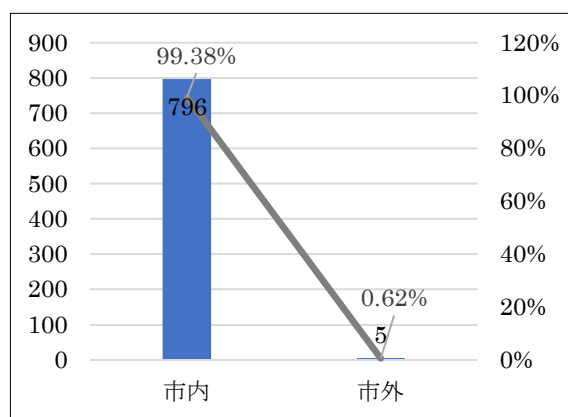
多くが「夫婦と子ども」の家族構成で、回答者全体の88.1%を占めている。



問5 家族構成

### 問6 住まいの地域

ほとんど(99.4%)の回答者が「市内」居住である。

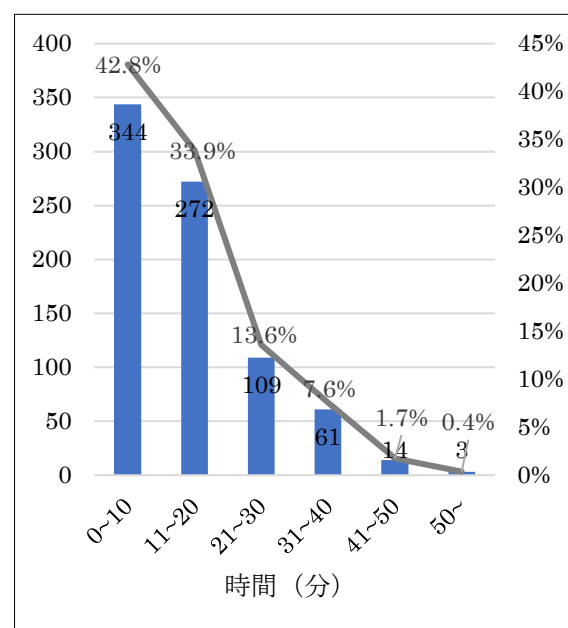


問6 住まいの地域

### 問7 最寄り駅までの所要時間

徒歩のみ、バスのみ、徒歩とバスの組み合わせ(3タイプ)を含め、「10分以内」が最も多く42.8%、次いで「11分以上20分以内」が33.9%でした。

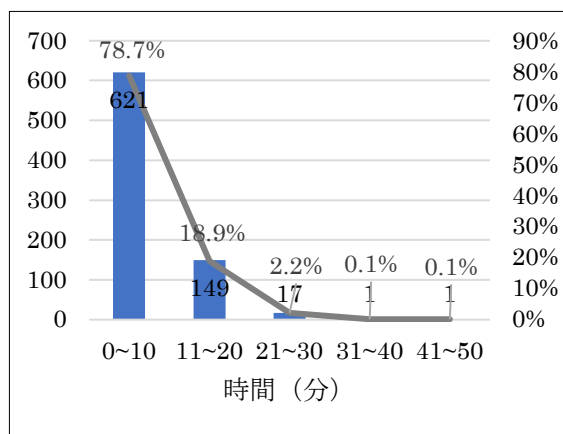
その結果、自宅から最寄り駅まで20分以内の回答者が全体の76.7%を占めることになっている。また、最寄り駅は、回答の多い順に、多摩センター駅が34%、聖蹟桜ヶ丘駅が23%、永山駅が34%でした。



問7 最寄り駅までの所要時間

### 問8-1 保育園までの所要時間

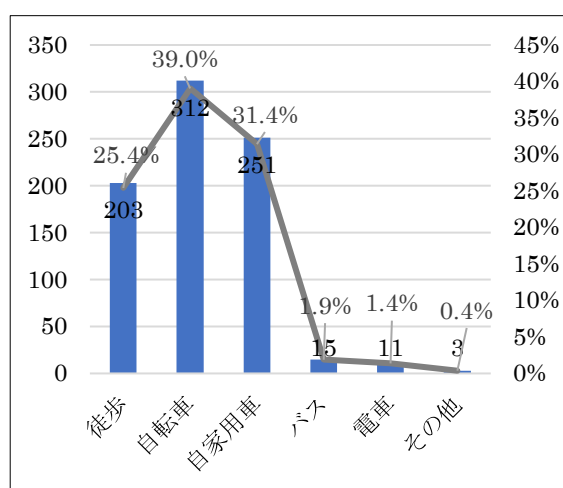
自宅から保育園までの所要時間は、「10分以内」がほとんどを占め(78.7%)、次いで「11分~20分以内」が18.9%でした。



問8-1 保育園までの所要時間

### 問8-2 保育園までの交通手段

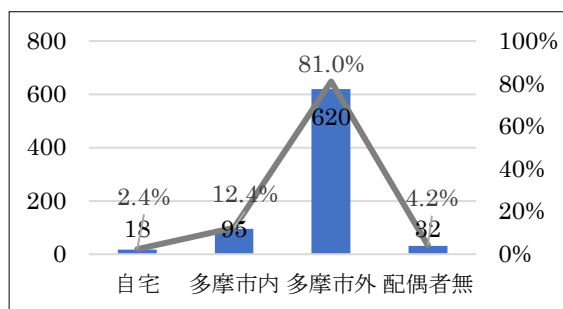
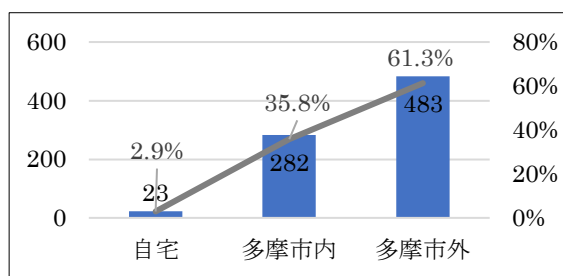
自宅から保育園までの主な交通手段は、「自転車」が最も多く、39.0%、次いで「自家用車」が31.4%、「徒歩」が25.4%を占めた。その結果、この3つの交通手段利用が全体の95.8%を占めている。



問8-2 保育園までの交通手段

### 問9 通勤先(仕事場)

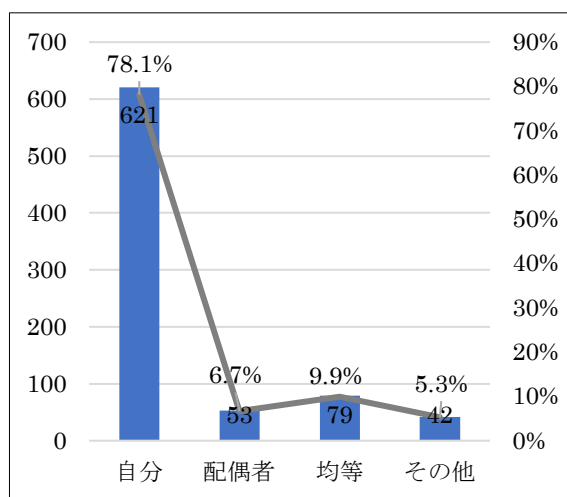
回答者の通勤先は、「多摩市外」が61.3%、「多摩市内」が35.8%、「自宅」が2.9%でした。一方、配偶者の通勤先は、「多摩市外」が81.0%、「多摩市内」が12.4%、「自宅」が2.4%でした。



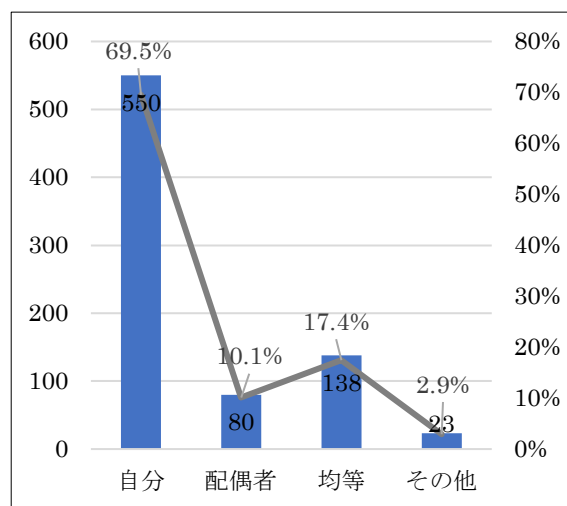
問9 本人(上)、配偶者(下)

## 問 10 家事の分担

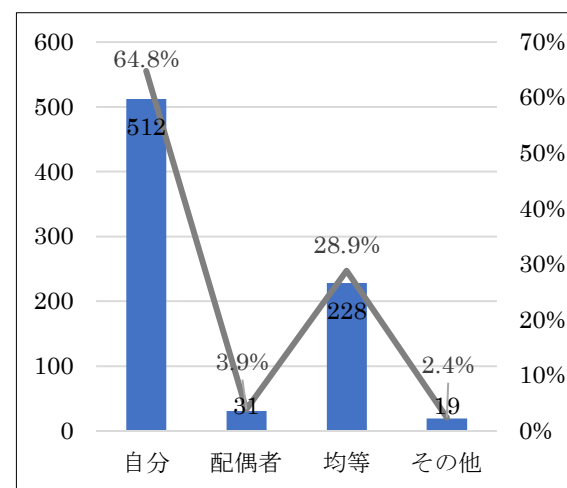
「炊事」、「洗濯」、「育児」全ての項目で、「主に自分」（回答者）が担う場合が多く、分担の偏りが見られました。「炊事」では 78.1%、「洗濯」では 69.5%、「育児」では 64.8%を「主に自分」が担うという回答でした。「主に自分」が担う割合が幾分下がるのは「育児」でした。「ほぼ均等に分担」、「主に配偶者」が担うとした回答が「育児」の場合は「炊事」、「洗濯」よりもやや多くを占めたことによるとみられる。



問 10-1 家事の分担 炊事



問 10-2 家事の分担 洗濯

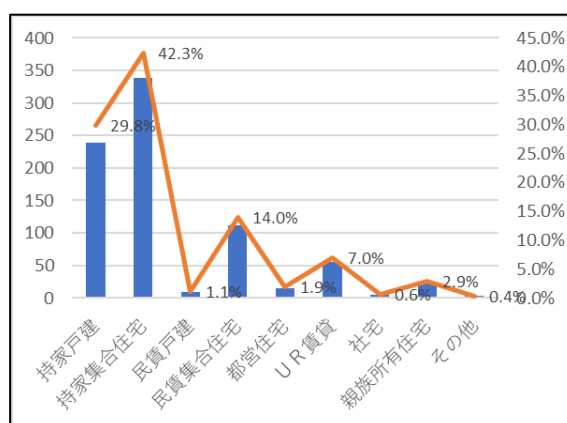


問 10-3 家事の分担 育児

## 2-2. 回答者の住まい

### 問11 住宅のタイプ

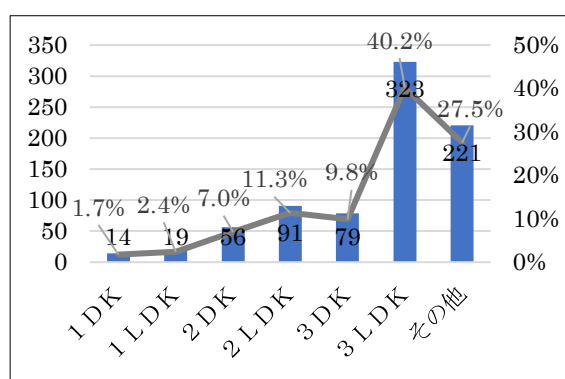
「持ち家の集合住宅（マンション、団地、タウンハウス）」が42.3%と最も多く、次いで「持ち家の一戸建て」が29.8%でした。持ち家に居住する回答者が全体の72.1%を占める結果となりました。



問11 住宅のタイプ

### 問12 住宅の広さ

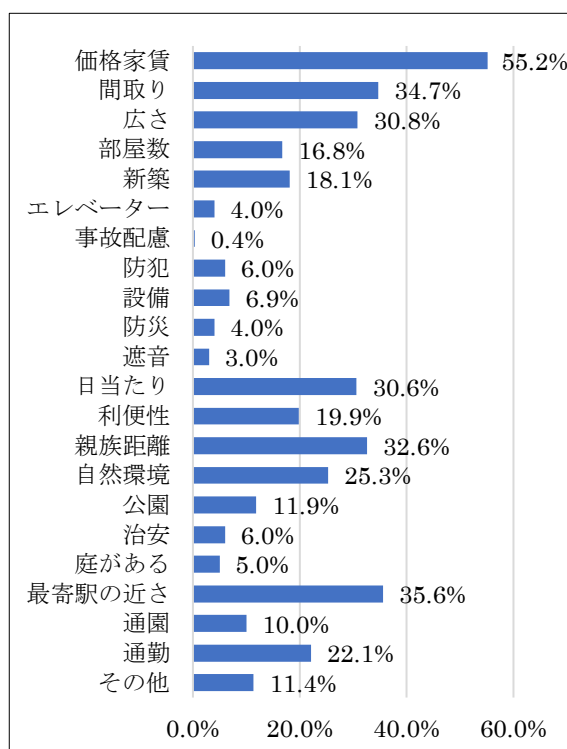
「3LDK」が最も多く40.2%、次いで「その他」が27.5%でした。この二つの広さで67.7%を占めている。



問12 住宅の広さ

### 問13 住宅選択の際の重視事項 (複数回答)

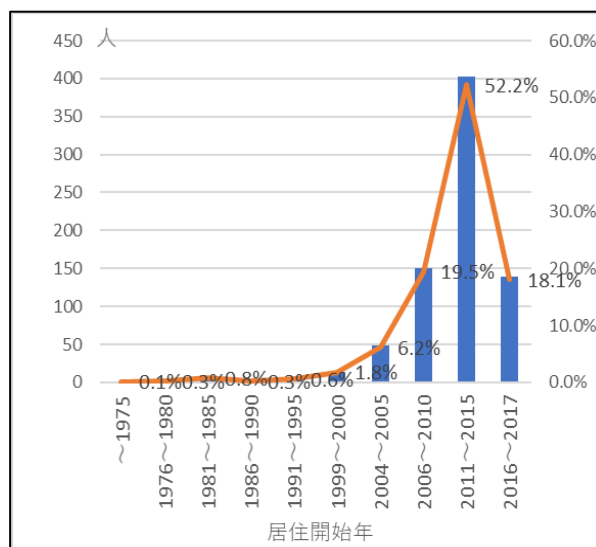
「住宅購入価格・家賃の支払い」が最も多く55.2%でした。次いでほぼ同じ程度重視されていた項目が「最寄駅への近さ」35.6%、「間取り」34.7%、「親など親族の家との距離」（親族距離）32.6%、広さ30.8%、「日当たり・風通しのよさ」（日当たり）30.63%でした。一方、「防犯性」「防災性」や「治安のよさ」、「遮音・防音性」などの設備関係の項目などで重視の度が低くなっている。



問13 住宅選択の際の重視事項

### 問 14 居住開始時期

半数以上の 52.2%が、2011 年から 2015 年の間に居住を始めている。ここ 10 年程度の間に住み始めた回答者の多いことが判る。

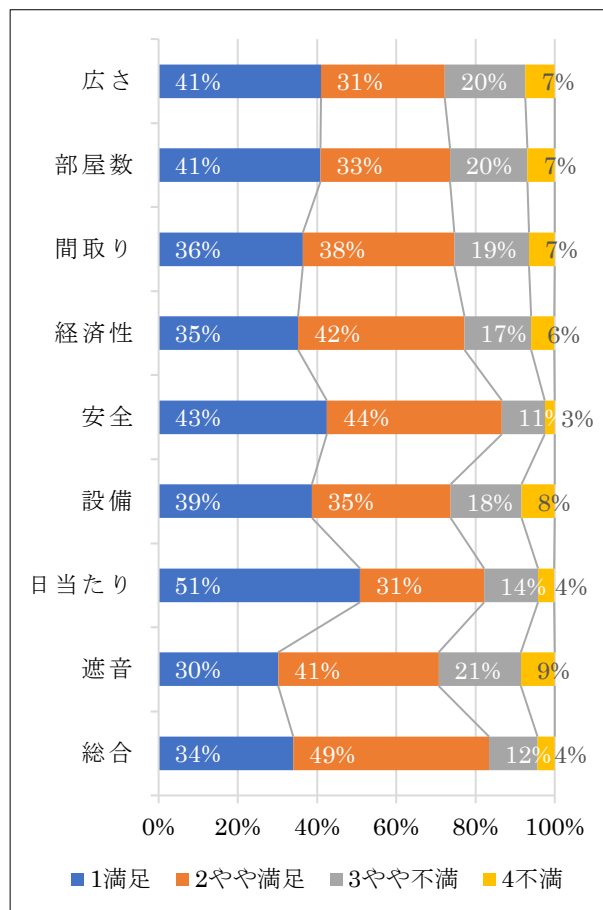


問 14 居住開始時期

### 問 15 現在の住まいへの評価

最も評価している項目が「日当たりや風通し等の居住環境」で、51%が満足と回答した。また、「満足 51%」「やや満足 31%」を加えると 82%となり満足の度合いが高いことが判る。

「室内での事故などの安全性」では、「満足」と「やや満足」を合わせて 87%となり「日当たりや風通し等の居住環境」よりも満足の度合いが高くなっている。他の項目でも満足の傾向が強く、「住まいについての総合評価」で満足の度合いが 83%（満足 34%、やや満足 49%）と多数を占めている。

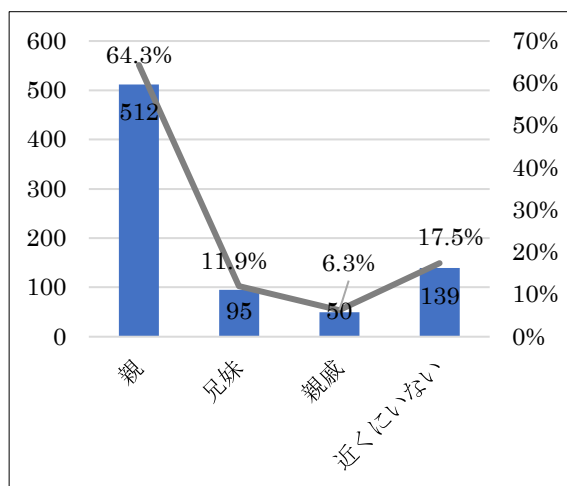


問 15 現在の住まいへの評価



### 問 16 親族近居

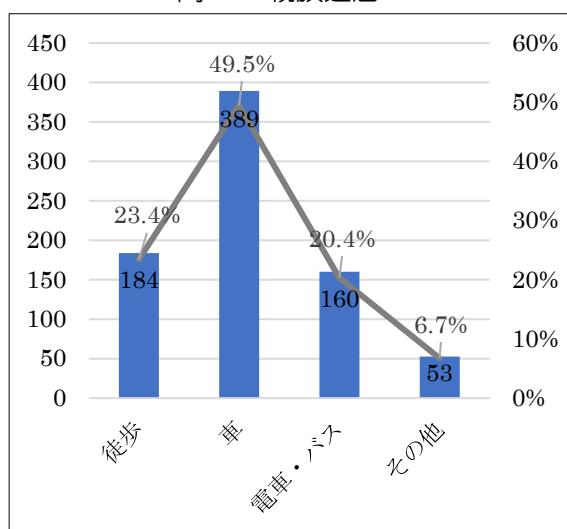
近くに居住する親族のいる回答者が多く、親が近くに住む回答者が64.3% (512人) を占めている。兄弟・姉妹、親戚を併せると、82.5%が、親族が近くに住んでいると回答している。



問 16 親族近居

### 問 17 親族との距離

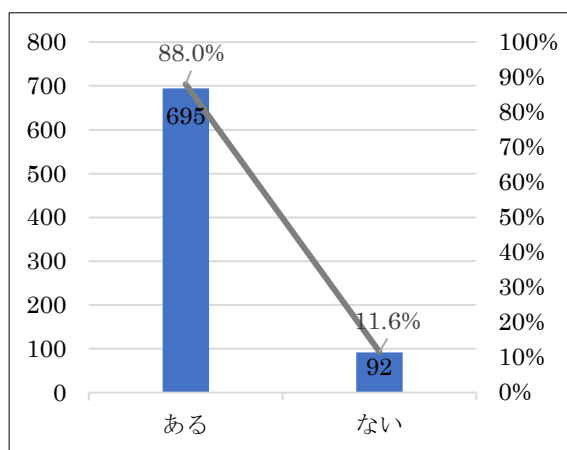
「車」で行き来する場合が最も多く、49.5%(389人)となっている。



問 17 親族との距離

### 問 18 親族との行き来

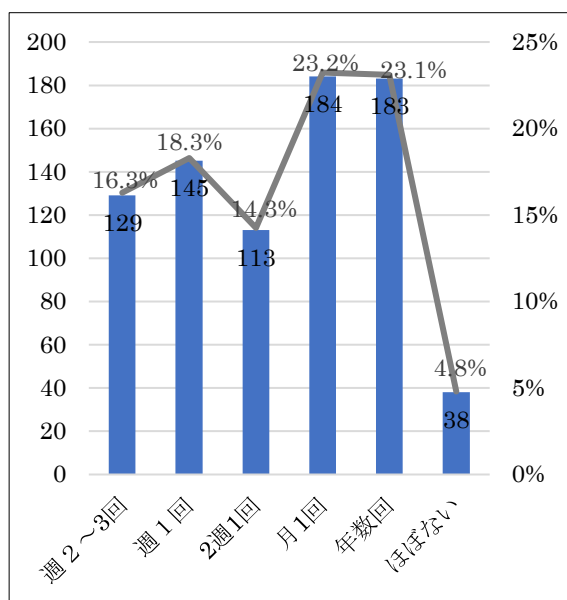
88% (695人)が親族との行き来があると回答している。



問 18 親族との行き来

### 問 19 親族との行き来の頻度

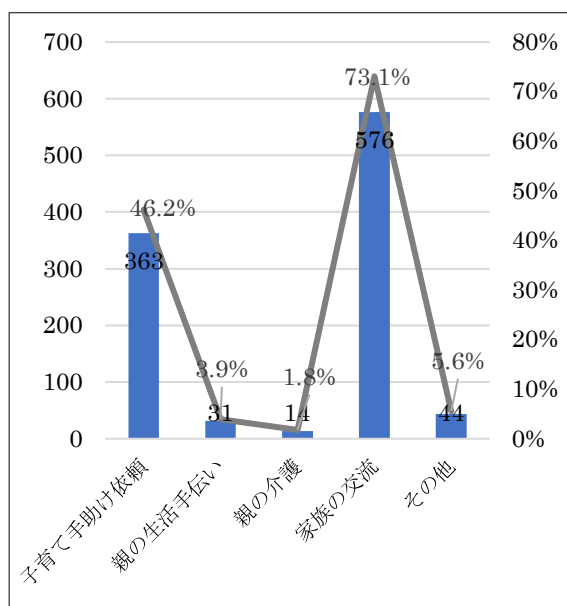
月1回が23.2%（184人）、年数回が23.1%（183人）と、ほぼ同様の回答数を集め、この二つの項目が最も多くなりました。週1回18.3%と週2～3回16.3%がそれに続いている。



問 19 親族との行き来の頻度

### 問 20 親族との行き来の主な目的 (複数回答)

最も多い73.1%（576人）が「家族の交流」を選択した。次に多い項目が、「子育ての手助け依頼」で、46.2%（363人）である。一方、「親の介護など支援のため」「親の生活手伝い」を選択した回答者は、少数である。

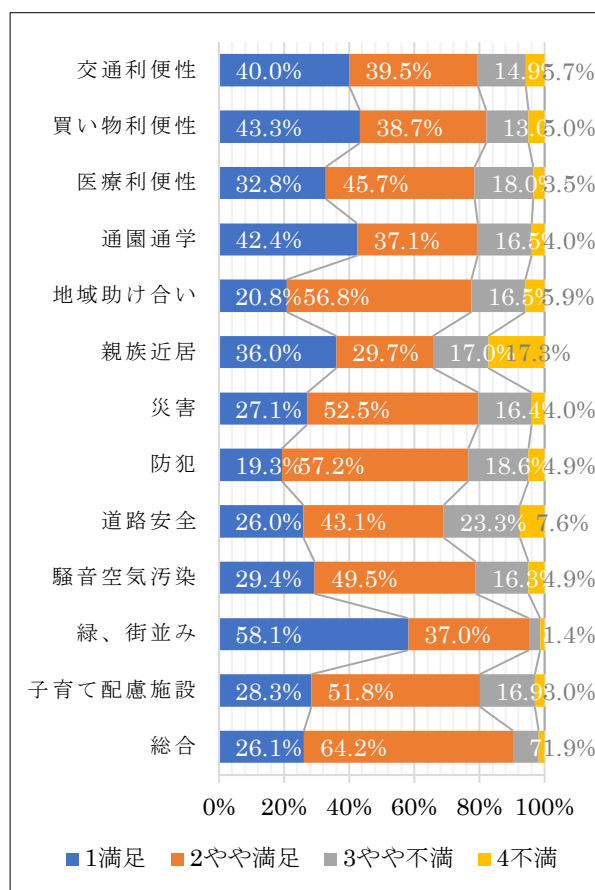


問 20 親族との行き来の主な目的

## 2-3. 地域の住環境

### 問 21 地域住環境への評価

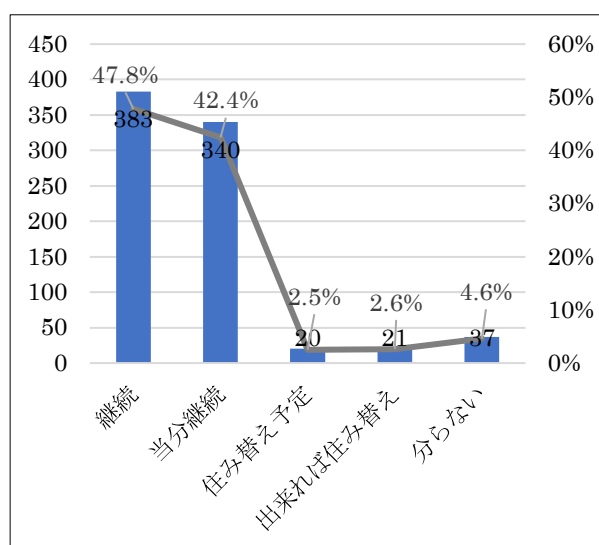
「緑の多さや街並みのよさ」（緑、街並み）への満足度が最も高く、満足 58.1%とやや満足 37.0%を合わせて 95.1%となっている。「治安や犯罪発生に対する防犯性」（防犯）では、満足は 19.3%と項目中最も低いが、やや満足 57.2%と合わせると、満足の割合は 7割以上になる。総合的には、満足の割合が 90.3%という結果になっている。



問 21 地域住環境への評価

### 問 22 居住継続性

「住み続けたい」（継続）と「当分は住み続けたい」（当分継続）を合わせると、90.2%（723人）となり、居住継続希望が多くを占めている。

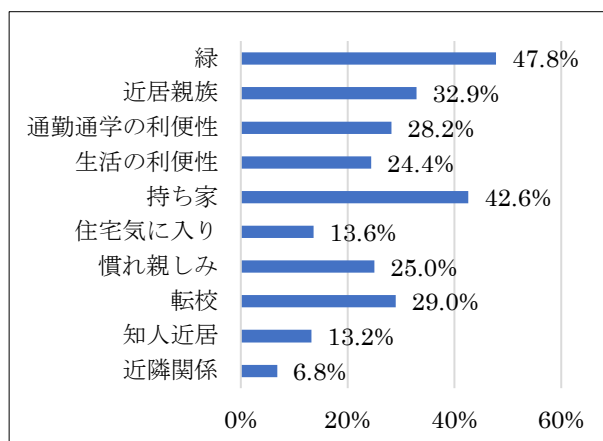


問 22 居住継続性

### 問 23-1 居住継続の理由

(問 22 で「住み続けたい」を選択した回答者、複数回答)

「緑が多く、自然環境が気に入っているから」(緑)が最も多く、47.8%、次いで「持ち家だから」が42.6%、「近くに親や兄弟等がいるから」(近居親族)が、32.9%でした。



問 23-1 居住継続の理由

### 問 23-2 その他・居住継続の理由 (自由記述)

173 人から回答があり、回答者(803 票)のうち、21.5%に自由記述の回答があった。その一部を紹介する(原文のママ)。

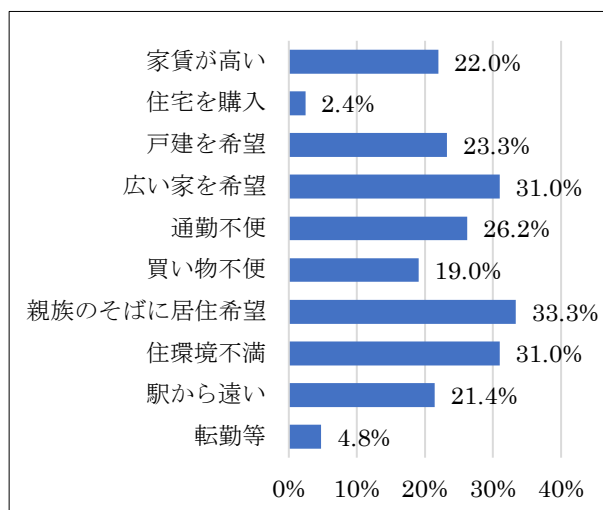
- ・子供のころから住んでいて慣れ親しんでいる場所だから。
- ・実家近くに越したいが子育てするには多摩市の方が児童館子育て支援センターが充実しているし公園も多く自然も多い。なかなか環境が整っているのではと子育てを始めてから感じます。
- ・多摩市は地域住民が主体となって活動している団体等が多く、高齢になっても色々参加されたり、勉強されたりしている方が多いと感じました。図書館も近く、年を取ってから活動的に過ごせそうだと思います。

問 23-2 その他・居住継続の理由

### 問 24 住み替えたい理由

(問 22 で「住み替えたい」を選択した回答者、複数回答)

3 割を超えた項目は、「親や親族の近くに住みたいから」(親族のそばに居住希望)33.3%、「広い家に住みたいから」(広い家を希望)31.0%、「住環境が気に入らないから」(住環境不満)31.0%でした。

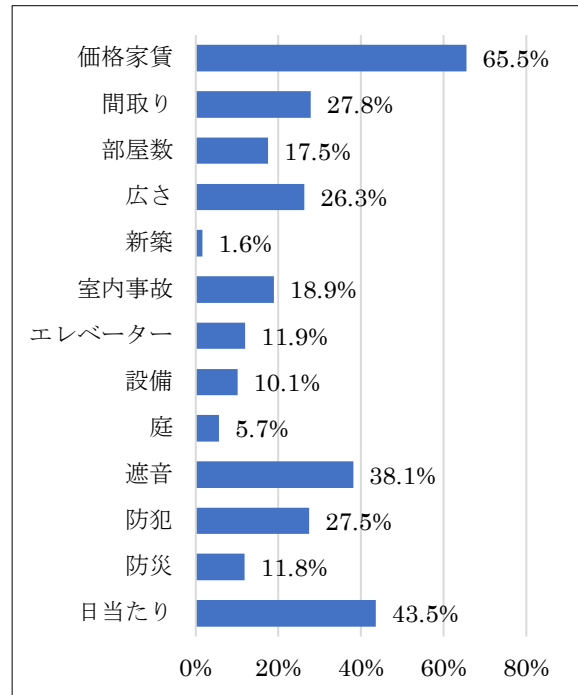


問 24 住み替えたい理由

## 2-4. 子育て期の住まいと住環境

### 問 27 子育て期に必要な住宅の条件 (複数回答)

「負担可能な住宅価格・家賃」(価格家賃)が最も多く65.5%、次いで「日当たり・風通し」(日当たり)が43.5%、「遮音・防音性」(遮音)が38.1%でした。

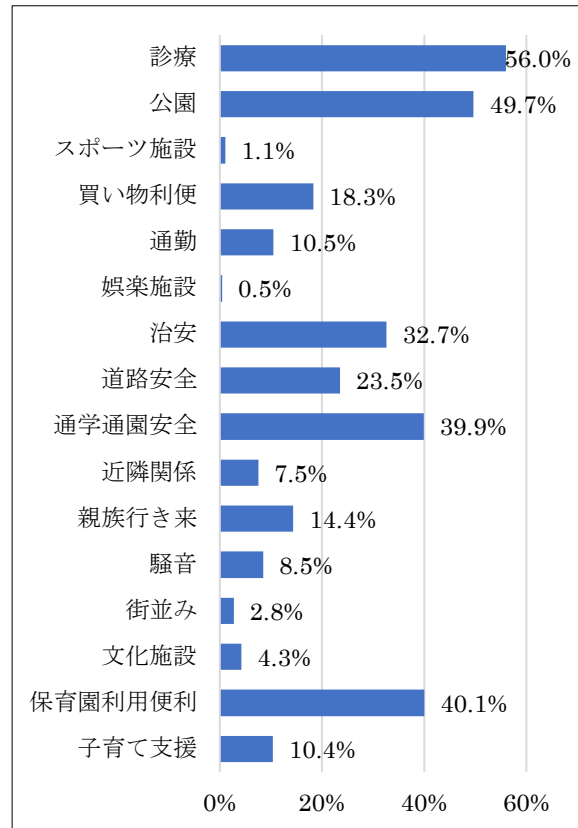


問 27 子育て期に必要な住宅の条件

### 問 28 子育て期に必要な住環境の条件 (複数回答)

「医院・病院が近い、診察が受けやすい」(診療)が最も多く56.0%、次いで「緑地や公園・遊び場が近い」(公園)が49.7%、「保育園・幼稚園・学童保育が利用しやすい」(保育園利用便利)が40.1%、「通学・通園時の安全性が高い」(通学通園安全)が39.9%でした。

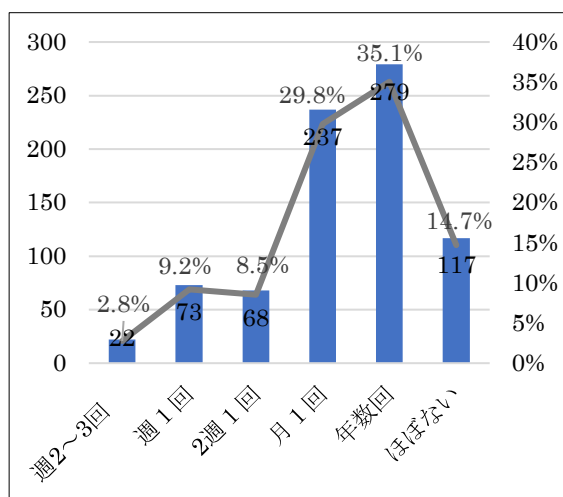
一方で、選択した回答者が少なかった項目は、「映画館などの娯楽施設が充実している」(娯楽施設)、「スポーツ施設が利用しやすい」(スポーツ施設)などでした。



問 28 子育て期に必要な住環境の条件

### 問 29 子育て中の友人と会う頻度

「年数回」が最も多く 35.1%、次いで「月 1 回」が 29.8%となった。



問 29 子育て中の友人と会う頻度

### 問 30 子育て中の友人と子連れで利用する場所（自由記述）

591 人から回答があった。一部を紹介する（原文のママ）。

「普段よく会う場合」、「久しぶりの場合」の両方とも、個人宅（自宅または、相手の家）が目立った。

#### 普段よく会う場合

- ・お互いの家
- ・公園、児童館、子供が騒いでも OK な場所
- ・近くのファミレス、子連れの場合は誰かの自宅

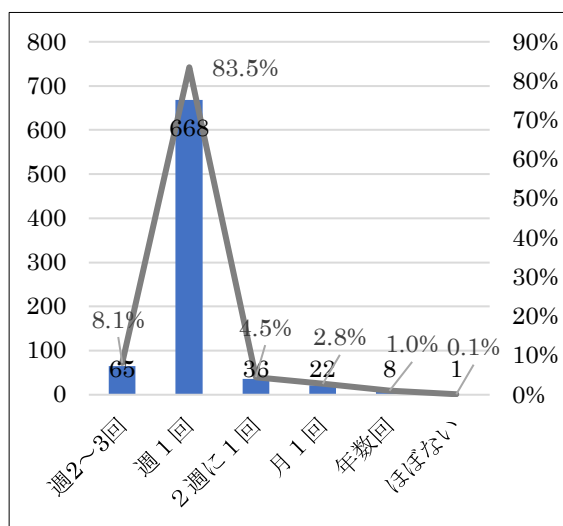
#### 久しぶりに会う場合

- ・友人の家又は自宅
- ・子供がまだ小さいので遠くに住んでる友達には自宅にきてもらっています。

問 30 子育て中の友人と子連れで利用する場所

### 問 31 親子で遊びに出掛ける頻度

「週 1 回」が多くを占め 83.5%でした。



問 31 親子で遊びに出掛ける頻度

問 32 親子で遊びに出掛ける時に利用する場所、利用の主な目的  
(自由記述)

487人から回答があった。一部を紹介する(原文のママ)。

- ・場所：公園、目的：砂遊び
- ・場所：公園、総合体育館、交通公園、児童館、目的：安全で子供がのびのびと遊べる、予算がかからない
- ・場所：総合体育館、花の木公園、目的：雨の日でも利用できる、近いから
- ・場所：郷土の森、目的：たくさん身体を動かして遊べる、家から近くて安い

問 32 親子で遊びに出掛ける時に利用する場所、利用の主な目的

問 33 子連れ利用者への配慮が行き届いている場所・施設  
(自由記述)

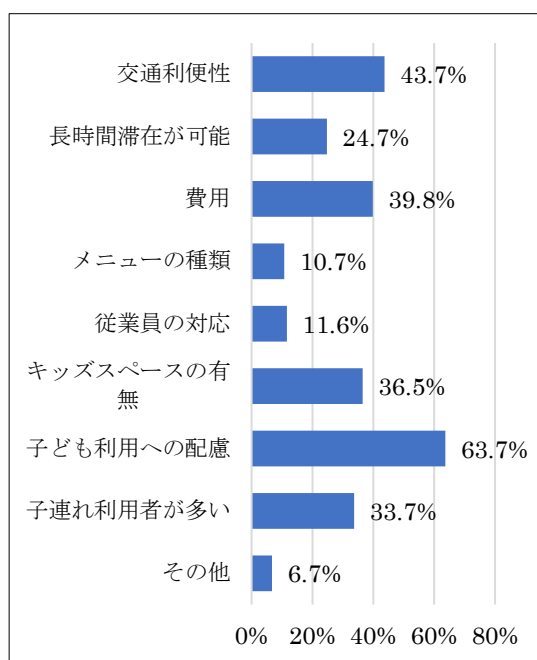
373人から回答があった。一部を紹介する(原文のママ)。

- ・たまっこ広場→トイレ、授乳スペースの完備、園庭、室内共に遊びやすい、只、(日)にやっていないので、10時～16時までの時間、もう少し長い時間してほしい。稲城市のバオバブ保育園の(土)の広場→園庭、室内共にそんなに広くはないが、充実して遊べる、オモチャの無料貸し出しがある
- ・子供の国、昭和記念公園、府中郷土の森、アクアブルー。ベビーカーが用意されていたり、床がコンクリートではなく、子供がけがしない様な造りになっていた為
- ・大型ショッピングモール(アリオ橋本、ららぽーと港北、アウトレットモール)に授乳室、子供の遊びの広場があるため、子供が飽きずに施設を利用することができる。
- ・ディズニーランド：トイレ・乳児用スペースが使用しやすい
- ・特にどこというわけではないが、キッズトイレ、赤ちゃんスペースや授乳室が充実している場所。通路の広い商業施設やスーパーは子連れには利用しやすい。

問 33 子連れ利用者への配慮が行き届いている場所・施設

### 問 34 親子で利用する施設選択時に重視する点

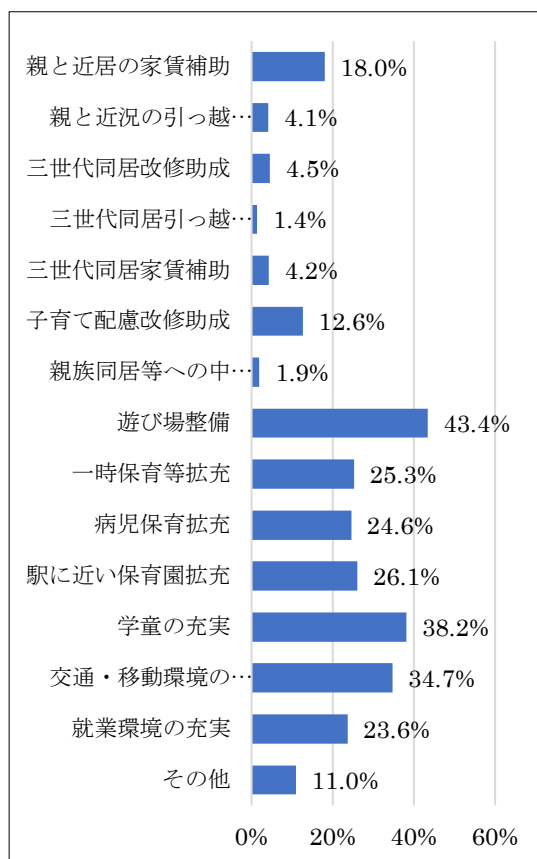
「子どもの利用に配慮した設備がある」(子ども利用への配慮)が最も多く63.7%である。次いで「交通の利便性」43.7%、「利用する際に費用」(費用)を39.9%が選択している。



問 34 親子で利用する施設選択時に重視する点

### 問 35 居住継続や子育て世帯が多摩市に移り住むための有効施策

最も多いのは「遊び場等の整備・改善(公園・児童館など)」(遊び場整備)で43.4%、次いで「学童の拡充」(学童の充実)を38.2%、「交通・移動環境の充実」を34.7%が挙げている。一方で「三世代同居への引っ越し費用・登記費用の助成」など親族との同居に関する助成項目を選択する回答者は少数であった。



問 35 居住継続や子育て世帯が多摩市に移り住むための有効施策



### 問 36 多摩市に期待すること

#### (自由記述)

481人から回答があった。回答者(803票)の59.9%から、自由記述に回答があり、関心の高さが表れている。一部を紹介する(原文のママ)。

・良い点：道路が比較的整備されていて安全に歩行できるところが多い 認可保育園に入りやすい 期待する点：公園の芝生化の推進 商業施設の活性化 市立学校の耐震強化の推進 学童保育の充実

・多摩市のよいところは学校、病院、公園、買い物のしやすいところ基本的な生活をするには、十分環境が整っています。もう少し点、働く人はほとんど市外に行っている。イベントとして、多摩市は、“これだ”というものが無い。多摩センターでの催し物も、もう一つ盛り上がりがない。多摩市のショッピングモールは、良品質、高価な物が買えたり、おしゃれなイメージが無い感じ。高い買物は、多摩市ではしない。

・公園が多くあることはとても良い所 子どもがいると近所への迷惑も考えるがわりと温かく声をかけてくださる方が周囲に多いのが助かっている

・公園が多く遊ぶ場所が多いのは良いと思う。駅周辺になると車との距離も近くなり危険だなと感じるところも多い。ベビーカーを使っただけの駅での移動がやや不便を感じる。

・雨の日に遊びに行ける場所が近くにならぬので不便、昭和記念公園や、子供の国のような子供が楽しめる遊具がある大きな公園ができると良いなと思います。

・数は少ないが病児、病後児保育の施設がありとても助かります。今はいいのですが、今後小学校になってからどうしたらいいのか不安になります。せめて小学校低学年のうちだけでも病気の子をみてくださるととてもありがたいです。

問 36 多摩市に期待すること

### 3. 調査の分析および考察

#### 3-1. 子育て家族の住まいの特徴

多摩市内の全認可保育園・認定子ども園の保護者を対象として調査を行った結果、36.9%の回収率であった。回答者(803票)の特徴は、以下のとおりである。

- ① 回答者の持ち家率は72.1%と高く、その内訳をみると、共同住宅がやや多く(339)、一戸建て住宅(239)となっている。
- ② 住宅の広さは、3LDKが40.2%を占めており、4人家族が主流であることから、居住水準は一定以上の世帯が多いと考えられる。
- ③ 持家世帯が多いこともあり、住宅選択では、当然ながら経済性が最も重視され、次いで間取りとなっている。それ以外では、日当たり、最寄り駅からの距離が選択時の重視事項として挙げられている。特出すべきは、「親族との距離」であり、子育て家族の特徴と考えられる。
- ④ 居住年数は、86%の回答者が2006年以降からの居住であり、最も多く(52.2%)の回答者は2011~2015年から住み始めたと回答している。子育てを始めて現住宅に住み始めたものと考えられる。
- ⑤ 現在の住まいの評価は、満足度が概ね高い。「満足」「やや満足」を合わせると8割程度となっている。特に、「室内での安全性」は87%と満足度が最も高い。一方、少数ではあるが、「不満」をみると、「遮音」「設備」「広さ」が挙げられている。
- ⑥ 子育て期に重視されている「親族との距離」「交流頻度」「行き来の交通手段」では、64.3%が親との近居をしており、行き来を車で月1回程度しているとみられる。一方で、17.5%が近居する親族がいないと回答している。

#### 3-2. 子育て家族の住環境の特徴

地域の住環境についての評価は、以下のとおりである。

- ① 「緑の多さ、街並みのよさ」の満足度が最も高く、95.1%となっている。これは、多摩ニュータウンならではの結果と考えられる。次いで「治安など、防犯性」では満足度がやや低いものの、「やや満足」を合わせると7割以上となっている。
- ② こうした住環境の満足度の高さもあって、「住み続けたい」との回答は「当分住み続けたい」を合わせると90%を超えている。
- ③ 「住み続けたい」理由は、「緑の多さ」「持家だから」「近居親族がいるから」が多く、次いで「慣れ親しみ」が挙げられている。
- ④ 子育て期に必要な住宅の条件として、「価格・家賃」「日当たり」「遮音」が挙げられている。住環境の条件としては、「診療」「公園」「通学通園時の安全性」「保育園」「治安」が多く選択されている。

## おわりに

自由記述欄への回答が多く、とりわけ「多摩市への期待」では、481人から回答があった。回答者(803票)の59.9%から、自由記述に回答があり、関心の高いことが確認された。今回の調査では、回答者の持ち家率が高いことから、住宅や住環境への評価は比較的高く、「住み続けたい」居住者の回答となっている。こうした回答者の属性を踏まえて分析しても、「緑の多さや街並みの良さ」への評価や、「住み続けたい」との回答は高いと考えられる。今後、周辺他市の同様の調査結果とも比較するなど、今回の調査結果における多摩市の特徴を明らかにする必要があると考えている。

それにしても、自由記述欄での指摘をみると、「多摩市への期待」の大きさが感じられた。多摩ニュータウンの建設時の計画では、当然ながら「子育てをする住宅環境」を念頭においており、現在でも、子育ての環境として相応しい条件を備えている。それを子育て家族の回答者の多くが認めていることが確認された。

今後、より詳細な分析を行っていく予定である。

---

問い合わせ先：大妻女子大学社会情報学部 環境情報学専攻 松本研究室  
多摩市都市計画課 住宅担当 TEL：042-338-6817（直）